

第1回 小千谷市立小中学校の在り方検討委員会 会議録

日 時：令和7年2月20日（木） 午前10：00～12：04

場 所：健康・こどもプラザあすえ～る 会議室

出席者：18人

遠藤英和委員	船岡芳英委員	関昌子委員	鈴木進五委員	佐藤浩一委員
菊地亜弥子委員	若林靖人委員	大西洋子委員	渡邊類委員	大場亜梨沙委員
森本恵理子委員	渡邊久美子委員	佐藤正機委員	木原宏幸委員	関麻紀委員
佐藤正敏委員	和田慶太委員	大塚貴裕委員		

事務局：8人

松井教育長 山本教育・保育課長 林課長補佐 上村管理指導主事 小林管理指導主事
小田原学校教育係長 岩渕教育総務係長 和田主事

会議概要：

1. 開会

18人の委員からの出席をもって、「小千谷市立小中学校の在り方検討委員会設置要綱」第6条に基づき、会議の成立を報告。

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶

4. 自己紹介

5. 委員長選出・副委員長指名

「小千谷市立小中学校の在り方検討委員会設置要綱」第5条の規定により、次のとおり選任された。

委員長：遠藤英和

副委員長：佐藤浩一

6. 委員長・副委員長挨拶

7. 諮問

8. 議事

1. 検討委員会の趣旨と検討事項
2. 小千谷市立小中学校の現状と課題
3. 今後のスケジュール

9. その他

10. 閉会

発 言 者	内 容
事務局 委員	1. 検討委員会の趣旨と検討事項 2. 小千谷市立小中学校の現状と課題 資料 6 ～ 28 ページに沿って説明。 ・小千谷市は小中学校ともに、大きい学校が 1 つあり、他の学校は小さいという特殊な状態。学校の適正規模がどういうものか難しい問題ではあるが、小千谷市の将来を考えて取り組んでいかなければいけない。 ・適正規模と言われたときに学校の統廃合を考えてしまうが、統廃合でまかなえる様子はない。例えば、子どもたちが学校を選択できるような方法もあるが、毎年児童生徒数が増減してしまうという問題もあるため、引き続き検討する。 ・喫緊の課題と 10～15 年を見据えて考えなければいけない課題があるのではないかと。 ・子どもたちが地域の伝統芸能に触れる機会が少ないため、特色ある学校というものが、果たして実現できているのか。せっかく特色ある学校としているので、各地域の伝統芸能を授業の中に取り入れるべきである。 ・地域のコミュニティで育つ部分がかなり減っている。学校だけでなく、地域や家庭を含めて検討する必要がある。 ・小千谷市内だけで考えるか、全国からの移住を考えるかといった話し合う視点をどこに向けるかで、これからの方向性も変わってくる。移住を考えると、例えばオーガニック給食を取り入れて注目を集め、全国から子育てをしたい親を集めるといったこともできると思う。 ・教育移住を考えると、教育に特化した学校を建てるのもいい。 ・不登校の子どもたちが増加している中で、学校が楽しい・面白いというような環境にあるのかを子どもたち目線で考え、魅力ある学校について深掘りしていくことが必要。 ・小・中学校だけでなく、市内高校の生徒数も減少していることも含めて考えていく必要がある。 ・子どもの意見を反映させて、小規模校である強みを活かし、子どもたちが育っていける環境を作ることが大切。 ・子どもに通わせたい学校によって住む場所を決めるとすると、小規模校よりは、規模が大きい学校に行くと思う。さらに学校規模のアンバランスが加速すると思う。 ・小規模校・大規模校それぞれによさがあるため、学校規模のアンバランスは悪いことではなく、バランスを均等にする必要はないのではないかと。子どもファーストで考えると、子どもが通いたい学校を選ぶのが理想的。 ・教職員不足が課題となっているが、地域で働いている方を授業で活用することで、子どもたちへの技術の継承・子どもたちが将来を考えるきっかけになる。それも教育の在り方だと考える。 ・教職員数が減少している中で、離職を防げるよう教職員に対してのフォローが必要。 ・小千谷市にもフリースクールがあると、不登校の子どもたちの行き場が作れていい。 ・その学校だからできるオリジナルな教育活動を目指している。 ・インターネットの普及により直接言葉にして本心で話すという機会が少なくなっている。 ・SNS の普及やコロナ禍以降のことを考えたときに、子どもたちが悩んでいるのが人間関係。クラス替えができるというのは大きなポイント。

遠藤委員長	・中学校は全ての教科（９教科）で、免許を持った専門の教員から教えてもらうことが最優先。 ・子どもたち自身が選択する力をつけるためには、様々な体験・経験をすることが必要。しかし、現在の教育課程ではそのような時間を増やすことはできず、難しい問題となっている。 ・同じ市内でありながら、保護者の金銭的な負担が学校規模によって変わってくるというのはどうなのか。 ・小規模校の校長から来ていただいて、小規模校の現状と問題を聞く必要がある。 ・今後の検討委員会を学校で開催できると、学校の様子を見ることができるとてもよい機会になると思う。 ・検討委員会内で子どもたちの率直な意見を聞ける機会があるといい。 ・子どもたちの話を聞ける機会があるなら、話が上手な生徒会以外の子ども話を聞きたい。 ・検討委員会の資料や会議録を公開し、保護者や地域の方と一緒に考えていく必要がある。 ・各学校における他の学校との親交や情報交換など行われているか。 （児童生徒の交流は、小学校は同じ中学校区内で、中学校は市域全体で交流がある。） ３．今後のスケジュール 資料 29 ページに沿って確認。 （全委員 異議なし）
--------------	--